

日本国際教育学会

JIES NEWSLETTER

February 2005 No.16

ニューズレターダイジェスト

学会長挨拶 第 15 回 秋季大会報告 総会議事録 決算報告と予算案 役員一覧 2005 年春季大会の案内 事務局だより ブログ開設他 紀要『国際教育』第 11 号原稿募集 図書紹介 寄贈文献一覧 研究調査エピソード オランダ編 海外の学術会議情報

第 15 回大会の自由研究発表 (2004 年 11 月 14 日 , 帝京大学)



学会長挨拶

日本国際教育学会創立 15 周年を迎えて

会長 江原裕美(帝京大学)

1990年に設立された日本国際教育学会は今年(2004年)15歳となり、11月には第15回記念大会を開催致します。昔で言えば元服という独り立ちの年を迎えることが出来ましたことは、学会としての基盤がようやく固まりつつあることを示しており、会員の一人として心から嬉しく思うと同時に、草創期から尽力して下さった先達の会員の皆様、研究と学会運営に参加されている全ての会員の皆様、様々な形でご支援下さっている皆様に深い感謝を捧げたいと思います。このような重要な時期に会長という大役をお引き受け致しますことは私にとって非常な名誉でありますと同時に、重大な責任を背負い身も引き締まる思いでおります。はなはだ未熟ながら、全力で責任を全うする覚悟でおりますので、会員の皆様のご支援ご協力を心よりお願い申し上げます。

振り返ってみれば、80年代末からのベルリンの壁の崩壊、ドイツ統一、湾岸戦争、ソ連邦の解体、など世界を揺るがした数年のただ中で本学会は生まれました。戦後世界を枠づけてきた東西冷戦の終結は、戦後関係の地殻変動ともいうべき画期的な出来事であり、政治や経済、そして教育も大きな変化を遂げることになります。そして一つの世紀が終わり、21世紀の始まりに私たち

は立ち会いました。日本国際教育学会はこのような時代の変遷とともに生まれ、歩んできたとい えるのかもしれません。

しかし激動は終わりを告げたのではなく、今までの 15 年間をさらに上回る難しい時代が今後 も私たちを待ち受けています。日本は政治経済の大きな改革に向かい、国際社会における役割の 再規定に直面することとなり、また世界ではグローバル化の進展の一方で、南北問題の激化、内戦、民族紛争の多発、環境問題の深刻化、など世界規模の問題が山積しています。そのなかで、 21 世紀は「新しい戦争」と共に幕を開けました。いまだ南アジアを初めとする各地で悲惨な暴力の応酬が続いていますが、こうした事態に対して教育を研究する私たちは一体何をしてきたのか、と自問せざるを得ません。複雑な世界の変化の中で、子どもたちのためのより良い教育環境の整備、世界的問題への取り組み、平和のための国際理解など、国際教育の必要性はかつてなく高まっていますが、日本という国に身を置く私たちの国際教育研究とはどのような位置にあるのでしょうか。そして私たちは一人一人の研究者として何をすべきなのでしょうか。私たち自身への深い問いかけが今まさに必要となっているように思われます。

このような問題意識を深め、研究の交流を行う場として、日本国際教育学会が意義ある立場を 占めることができますよう、今後とも努力を続けていく所存でございます。会員の皆様には是非、 これまでもそうでありましたように積極的に参画して頂きまして、本学会の歩みを確固たるもの にすべく、ご協力頂けますよう改めてお願い致しまして、会長就任のご挨拶とさせて頂きます。

第15回秋季大会報告

1.第15回大会報告

大会実行委員長 江原裕美(帝京大学)

学会創立 1 5 年を迎えた今回の大会は、2004 年 11 月 13,14 日の両日にわたり、帝京大学の 八王子キャンパスで行われました。多数の会員や会員以外の方々の参加により、充実した研究発 表、熱心な討議と和やかな交流が見られ、盛会のうちに終了することができましたことをまずは ご報告致します。

大会初日午前は日本語教育に関する発表が4件、英語教育関係2件のほか、アメリカの精神遅滞児教育、イギリスの職業教育を扱った発表、合計8発表が行われましたが、いずれの発表会場でも熱気にあふれた質疑応答がありました。午後には「国際教育の現状と未来-世界的視点から」と題して信州大学教授/文化科学高等研究院ジェネラル・マネジャーの山本哲士先生による記念講演があり、「プライベート」と「ソーシャル」という概念を解き明かし、教育における「ホスピタリティ」の重要性を指摘するという大変斬新で興味深い内容が、参会者の共感を呼んでいました。また総会、懇親会も、皆様のご協力によりスムーズかつ和やかに終了致しました。

大会第二日には、「国際教育研究の課題と展望 - 日本人研究者の視点」をテーマとする記念シンポジウムが開かれ、いずれも本学会会員である、小澤周三氏、浅沼茂氏、佐藤尚子氏、柿沼秀雄氏から、イギリス、アメリカ、中国、アフリカ・アジアというそれぞれの専門地域をふまえて国際教育の課題をご発表頂きましたが、全体としてグローバル化に関わる多様な問題が浮き彫りとなる充実したセッションとなりました。午後には中国のコリアンチャイニーズ、ニュージーランドのマオリ、ベルギーのムスリムという、マイノリティをめぐる教育問題を取り上げた3発表、日本、また中国の留学生問題に関する2発表のほか、宗教的原理主義、好太王碑をめぐる日中韓の歴史教育、中国におけるトランスナショナル教育、日本のJETプログラム、欧州の高等教育を扱った合計10発表があり、最後まで活発な議論が行われて、第15回大会にふさわしい締めく

くりとなりました。

大会を通じて、本学会では学術面および学会運営面における会員相互の交流が非常に活発であり充実していることを再認識致しました。ベテランの方々の広い視野、指導力と若手の活動力とがかみ合うことで、会員それぞれの研究が一層促進されると思われますし、そうした基盤をもとに、日本国際教育学会は今後もその持ち味を生かしたユニークな学会活動を発展させていくことができるのではないでしょうか。会員の活発な参加により本学会が「国際教育」にさらに貢献できますことを心から願うものです。

大会に足を運んで下さった皆様、発表、司会、議長、発言者など様々な形でご協力下さいました皆様、ボランティア精神で協力してくれた帝京大学の学生・院生諸君、そして準備の段階から開催にこぎ着けるまでを担って下さった大会実行委員会メンバーには、大会実行委員長として心より感謝しております。また最後になりましたが、大会開催に際しての様々な便宜と多額のご援助を提供して下さいました帝京大学に深く御礼申し上げます。

2. 秋季大会の感想

中山(落合)夏恵 (東京電機大学)

日本国際教育学会第 15 回秋季研究大会は、帝京大学の八王子キャンパスで 11 月 13、14 日に行われました。今大会は、個人的なことですが、初めて大会実行委員として準備段階から携わる機会を得られたり、また急に代替で発表することになったりと、非常に思い出深いものとなりました。その代替での発表ですが、私の専門分野が英語教育であるため、現在研究テーマとして取り組んでいる「多義語の学習法」に関する実践研究を発表させて頂きました。発表前は、「国際教育」の学会に本当にこのテーマで差し支えないのか、聴衆の皆様は果たしてこのような内容に関心を持って下さるのか等、直前までずっと落ち着かない気持ちを抱えていました。しかし、分野の異なる、しかも拙い発表であったにも拘らず、多くの方が聞きに来て下さり、また発表に関する本質を突いた貴重なご意見も頂き、大変感動しました。当日のプログラムを見返しますと、発表のテーマが非常に多岐に渡っていることに気付かされます。本学会の会員である皆様の非常に柔軟で知的好奇心の旺盛な姿勢は、「国際」という名の付く学会に相応しいものである、と感銘を受けました。

この学会に参加するたびに感じられることですが、本学会の魅力の一つにアットホームな雰囲気というのも挙げられるでしょう。今回大会に参加して改めて感じたことに、若手研究者たちの結束が非常に強いということ、また、著名な重鎮の先生方が非常に気さくに声をかけてくださるということがありました。このように暖かな雰囲気の学会は、そう多くはないのではないかと、私の数少ない経験の中からも感じられました。

このように秋季大会が皆様のご協力のもと全て滞りなく盛会に終了したこと、またその大会に 非常に微力ながら関わる機会を頂けたことに、深く御礼申し上げます。

3. 日本国際教育学会 第 15 回大会 収支報告

収入

項目	金額	備考
大会補助	100000	
参加費+懇親会費+弁当代	287260	参加者 53 名
広告料 + 本売上マージン	10920	(株)新評論
個人寄付金	50000	坂上秋雄・トシ氏
帝京大学補助金	59000	

合計 507,180 円

古支

コピー代(発表募集用)	1795	お茶菓子代	4971
封筒代	2887	大会用品託送代	1060
インクカートリッジ	1239	当日飲み物代	1252
発表募集郵送料	16410	シール代	315
会合飲み物	1149	弁当代 (内スタッフ用 14040 円)	32760
会合パン代	2933 記念講演謝礼 (内交通 費 10000 円)		60000
封筒印刷代	6389	発表要旨集印刷代	22449
振り込み手数料	420	発表要旨追加分	3045
司会者資料郵送代	1120	要旨集郵送料	1690
名札用紙代	用紙代 441 弁当代返金		1010
管弦楽団謝礼	管弦楽団謝礼 23000 懇親会費		166300
プログラムコピー代	16905	学生バイト料	48000
郵送料	1320	看板・掲示物製作料	15000
紙コップ代	1149	ポスター製作料	18000
文具代	2704		
合計 455,713 円			

51,467 円を学会事務局に送金する

以上相違ありません

2005年1月20日

大会実行委員長 江原裕美

4.第15回 日本国際教育学会総会議事録

日程 2004 年 11 月 13 日 場所 帝京大学 11 号館 8 階 1181 教室

. 開会の辞 志賀幹郎事務局長

- . 学会長兼第 15 回大会実行委員長挨拶 江原裕美会長・第 15 回大会実行委員長
- . 議長選出

会場に議長選出の諮問があり、金城栄喜会員が全会一致で議長に選出された。

審議に先立ち、志賀幹郎事務局長より本総会の定足数と出席者数が報告された。日本国際教育学会規則第5条第2項の定める定数を充足しており、本総会は適法かつ有効である旨が宣言された。

国内在住の正会員数119 名出席者数31 名委任状31 名

総会の議事録作成委員に村山拓事務局長補佐を指名し、下記の議案を審議事項とした。

【総会議案】

1. 2003年度事業報告(案)について

- 2. 2003 年度決算報告(案) および監査報告について
- 3. 紀要第10号編集委員会報告について
- 4. 紀要第 11 号の編集方針について
- 5. 役員選挙の結果について
- 6. 2004 年度役員・事務局員紹介
- 7. 2004年度活動計画(案)について
- 8. 2004年度予算(案)について
- 9. 2005年度の研究大会(春季・秋季)の開催について
- 10. 顧問、名誉理事の委嘱について
- 11. その他

. 報告承認事項

- 0. 各議案の審議上、相互に関連する議案を一括上程する形式を執ることが了承された。
- 1. 第1号・第2号議案につき志賀幹郎事務局長が説明した【6-7頁参照】。
- 2. 監査報告については、小宮明彦(2004年9月24日監査) 小川彩子(2004年10月5日監査) の両会計監査人に代わって、志賀事務局長が報告した。
- 3. 第3号・第4号議案につき、岡田昭人編集委員長による第10号の編集作業の報告と、西村俊 ー編集委員長による第11号の編集方針の説明があった。質疑応答の後に、同議案は原案のと おり全会一致で可決された。【10-11 頁参照】
- 4. 第5号・第6号議案について、江原裕美新会長が、役員選挙の結果と新たに選出された役員を紹介した。また、江原新会長が役員を代表して「先輩各位がこれまで一生懸命築いてこられた学会の伝統と気概を受け継ぎ、国際教育の一層の充実強化と研究活動の整備を計り、会員一同の親睦と融和をもって本学会の一層の発展に資する決意である」と挨拶した。同議案は全会一致により承認された【8頁参照】
- 5. 第7号・第8号議案について、志賀幹郎事務局長が説明し、以下の質疑応答がなされた。 活動方針について、学会の収支の安定を図るという趣旨は理解できるが、予算案において 雑収入を0円とするのは技術的に問題がある。この場において修正要求をするものではな いが、今後はこれまでの雑収入の実績を加味して予算案を作成してほしい。

(鈴木愼一会員)

上記の意見に対し志賀幹郎事務局長よりご指摘のように対応していく旨確認された上で、 原案のとおり全会一致で可決された。

6. 第9号議案について、江原裕美会長より説明された。

2005年春季研究大会について 【8頁参照】

日程:2005年4月、会場:電気通信大学、実行委員長:志賀幹郎会員 2005年秋季研究大会について

日程:未定、会場:東京学芸大学国際教育センター、実行委員長:西村俊一会員 上記提案について、詳細については執行部に一任するとし、全会一致で可決した。 議長の指名により、志賀幹郎 2005 年春季研究大会実行委員長、西村俊一 2005 年秋季研究 大会実行委員長が挨拶した。

7. 第10号議案について、江原会長が趣旨説明した。

学会規則第6条第4項により、多年にわたり本学会の運営全般に協力するとともに、総会議長として専門的見地からの的確な助言を提供し円滑な議事運営を図ってきた金城栄喜会員が顧問に推薦された。同議案について質疑応答がなされた後、全会一致で可決した。

名誉理事については、2004 年 12 月第一週まで理事からの推薦を待ち、その後の人選については江原会長に一任する旨が全会一致で可決された。 【8 頁参照】

. 閉会の辞 前田耕司副会長

上記は、第 15 回日本国際教育学会総会議事録であることを認証する. 2004 年 11 月 13 日 第 15 回 日本国際教育学会総会 議長 金城 栄喜

5.2003年度(第14年度)決算報告

日本国際教育学会 第 14 年度決算報告 (期間:2003年8月1日~2004年7月31日、単位:日本円)

総収入金額	1,971,830 円
総支出金額	1,050,724 円
差引残額	921,106 円

【収入の部】

1487 (0701)			
項目	予算額	決算額	詳細
前年度繰越金	603,148	603,148	郵便振替口座463,000/郵貯132,982/東京三菱7,166
会費	920,000	835,000	正会員×63口,学生会員×37口
利子	10	10	郵便局
紀要販売	120,000	122,600	
寄付金	150,000	150,000	第14回大会開催補助費(中部大学)
懇親会参加費	100,000	202,572	第14回大会懇親会, 2004年春季研究大会弁当·懇親会
報告要旨販売	35,000		第14回大会(@500円×32冊)
維収入	30,000	42,500	2004年春季研究参加費
収入合計	1,958,158	1,971,830	

【支出の部】

項目	予算額	決算額	詳細
旅費	30,000	1,480	会計監査
消耗品	30,000	53,627	封筒 , ラベル用紙 , ネームプレートetc.
郵送料	150,000	178,590	Newsletter/紀要/春季大会プログラム/理事会開催通知etc.
会合費	30,000	23,799	理事会/紀要編集委員会/第14回大会茶菓子代
大会開催補助費	100,000	100,000	第15回大会(帝京大学)
印刷費	550,000	357,712	NewsLetter15号/紀要9号/第14回総会配布資料etc.
謝礼	100,000	88,000	第14回大会/2004年春季研究大会
コピー代	30,000	4,804	理事会配布資料etc.
雑費	20,000	2,740	タクシー代(事務局荷物搬送)/払込取扱票印字代/振込手数料
懇親会費	140,000	184,972	第14回大会懇親会,2004年春季研究大会弁当代·懇親会費
予備費	28,158	55,000	第14回大会記念講演謝礼,懇親会費返金
小計	1,208,158	1,050,724	
次年度繰越金	750,000	921,106	
支出合計	1,958,158	1,971,830	

上記の通り報告いたします。

2004年10月5日 新規表質幹郎 電



監査の結果、正確であったことを認めます。

2004年9月24日 会計監查 八豆 明彦

2004年/0月5日 会計監查 八八八 彩子

Ayako Ogawa

日本国際教育学会 第15年度予算(案) (期間:2004年8月1日~2005年7月31日、単位:日本円)

【収入の部】

項目	予算額	備考
前年度繰越金	921,106	郵便振替口座463,000/郵貯132,982/東京三菱7,166
会費	900,000	
利子	10	
紀要販売	120,000	
寄付	0	
雑費	0	
収入合計	1,941,116	

【支出の部】

項目	予算額	備考
旅費	5,000	
消耗品	40,000	封筒,ラベル用紙など
郵送費	150,000	
会合費	20,000	
大会開催補助費	150,000	第16回大会
印刷費	500,000	紀要第10号 , Newsletter No.16
庶務費	50,000	
)謝礼金	20,000	学生アルバイトなど
)コピー代	10,000	
)雑費	20,000	
予備費	30,000	
小計	945,000	
次年度繰越金	946,116	
20周年記念企画積立金	50,000	
支出合計	1,941,116	

6.2004 - 2005 年度 役員一覧

役職	氏名	所属	国籍
会長	江原 裕美	帝京大学	日本
副会長	前田 耕司	早稲田大学	日本
常任理事	石川 啓二	山梨大学	日本
同	岡田 昭人	東京外国語大学	日本
同	小澤 周三	東京外国語大学(名誉)	日本
同	鈴木 慎一	早稲田大学(名誉)	日本
同	西村 俊一	東京学芸大学	日本
同	王 智新	宮崎公立大学	中国
同	鍾 清漢	アジア文化総合研究所	台湾
同	延岡 繁	中部大学	スウェー
			デン
同	朴 三石	朝鮮大学校	朝鮮
同	グレゴリー・プール	高千穂大学	米国
同	ロバート・アスピノー	滋賀大学	英国
	ル		
顧問	金城 栄喜	シアトル大学東アジア校	
名誉理事	武者小路 公秀	中部大学	
同	本間 長世	東京大学名誉教授(2006年7月迄)	
同	松崎 巌	元東京大学教授	
同	Moacir Gadotti	サンパウロ大学 / パウロフレイレ	
		研究所	
事務局長	志賀 幹郎	電気通信大学	
事務局次長	山崎 直也	国際教養大学 (2005年4月より)	
事務局長補佐	鴨川 明子	早稲田大学	
同	鳥井 康照	早稲田大学	
同	村山 拓	東京大学大学院	_
紀要編集委員会委員長	西村 俊一	東京学芸大学	
同 副委員長	グレゴリー・プール	高千穂大学	
同 幹事	福井 朗子	東京農工大学 (院生)	

2005 年春季研究大会のご案内

実行委員長 志賀幹郎(電気通信大学)

会員の皆様、来たる4月16日に、東京都調布市の電気通信大学にて2005年春季研究大会が開催されることは、かねてご案内の通りでございます。ニューズレターがお手元に届く頃には、発表者も確定していることと存じます。現在(1月21日)のところ、まだ予定数に達しておりませんので、実行委員長としては、やや心配をしているところです。東京外国語大学で開催されました2004年春季大会では、14の研究発表が行われました。今回も同数程度の研究発表をいただき

たいと期待しております。詳細が決まりましたら、追ってご案内申し上げます。会場となる電気通信大学は、新宿から電車で15分、駅から歩いて7分と意外に近く、甲州街道沿いということで車でも便利という立地です。ご参加を是非お願い申し上げます。

場 所: 電気通信大学 (http://www.uec.ac.jp)

日 時: 2005年4月16日(土)

受付開始:9時

研究大会:9時30分~16時30分(予定) (会場未定)

懇親会: 17時~19時(予定) (会場、懇親会費未定)

大会参加費:一般会員1,000円、学生会員500円(予定)

事務局だより

1. 紀要定期購読会員募集

本学会では,紀要の定期講読会員(団体)を募集しております.大学図書館,各種団体図書館などで講読を希望される場合は,学会事務局までご連絡ください.

2. 新入会員紹介

2003 年度第3回(2004年2月14日開催),2003年度第4回(2003年4月2日開催),第5回(2004年7月17日開催),及び2004年度第1回(2004年8月23日),第2回(2004年11月12日)の常任理事会で入会を承認された新入会員の皆様をご紹介します.

氏 名	所 属	会員の種別	国 籍
雄谷 進	国際交流基金 日本語国際センター	正会員	日本
裘 暁蘭	早稲田大学大学院(院生)	学生正会員	中国
黒田 千晴	神戸大学大学院 (院生)	学生正会員	日本
佐藤 優子	早稲田大学大学院(院生)	学生賛助会員	日本
白幡 真紀	放送大学大学院 (院生)	学生賛助会員	日本
鶴見 剛	名古屋大学大学院 (院生)	学生正会員	日本
中島 裕子	· 松子 広島大学大学院 (院生)		日本
	関西総合リハビリテーション専門学校		
藤田 友治	大阪経済大学	正会員	日本
見原 礼子	一橋大学大学院 (院生)	学生正会員	日本
山本 真里	一橋大学大学院 (院生)	学生正会員	日本
叶林	広島大学大学院 (院生)	学生正会員	中国

(日本語読み、50音順)

3.学会ウェブサイトをご活用ください! @ @ @ @ @ @ @ @ @ @

日本国際教育学会ウェブサイト http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/ では,研究大会の開催情報など,学会の最新情報を随時お知らせしております.ぜひご活用ください.

4.メールマガジン『JIES Mail News』の登録 @ @ @ @ @ @ @ @ @

学会の最新情報を随時 Email でお知らせするメールマガジン『JIES Mail News』を発行しております。研究大会の情報や紀要の原稿募集に関する情報、国際教育関連のシンポジウム・講演会のご案内など、最新の役立つ情報を無料でお届けしております。登録は下記よりお願いします。

http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/mmtop.html

5.学会ウェブログ(ブログ)開設 @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @ @

この度,国際教育に関連するシンポジウム・講演会・研究会等の最新情報を、ウェブログ(通称「ブログ」:メールや掲示板に書き込むような要領で情報更新が容易に行うことができるウェブサイト)の形式でお届けすることになりました.迅速な情報の更新が可能ですので、情報の掲示を希望される会員は,事務局長・志賀幹郎まで,E-mailにてお知らせ下さい.情報は随時募集しております。

http://jies.exblog.jp/ *「お気に入り」にご登録ください.

情報送信先:shiga@fedu.uec.ac.jp

6.連絡先・所属変更をお知らせください.

4 月からの新年度を迎え,所属変更にともない会員資格に変更がある方,連絡先が変更になる方がおられましたら,事務局まで E-mail (shiga@fedu.uec.ac.jp) または FAX (0424-43-5742, 志賀幹郎宛) にてご一報下さい.

学会紀要『国際教育』第11号原稿募集

紀要編集委員会では『国際教育』第 11 号の発刊に際し,自由投稿論文,調査報告,教育情報, 書評,資料紹介を募集いたします.(2005年5月10日締め切り)

投稿を希望なさる会員は ,下記の要領にしたがって投稿して下さい .詳しくは ,「紀要投稿要領 」 をご参照下さい . なお , 紀要投稿要領をお持ちでない方は学会事務局にご照会下さい .

- 1. 論文のテーマは日本国際教育学会活動の趣旨に沿うものとする.
- 2. 掲載論文は,口頭発表の場合を除き,未発表のものに限る.
- 3. 使用言語は,日本語,英語,中国語とする.
- 4. 原稿は横書き・ワープロ書き・ポイント 10.5 ポイント・A4 版に 1 行 40 字×40 行(1,600字), 執筆分量は, 和文では,論文 28,000字以内,研究ノート及び調査報告書 4,800字以内,

書評・資料紹介 2,400 字以内 . 英文では, それぞれ A 4 ダブル・スペース 22 行で 35-40 字以内, 9 枚以内, 4 枚以内. 中文では, それぞれ 16,000 字以内, 2,700 字以内, 1,200 字以内. 英文原稿は American Psychological Association's Manual of Style, 4th Edition に準拠する. 題目は 12 ポイントとし, 日本語・中国語の場合は副題も含めて 30 文字, 英語の場合は 15 語以内とする.

- 5. 投稿原稿には和文論文には英語 500 語以内の要旨,英語・中国語論文には日本語の要旨(A4×1 枚程度)を添付し,原稿と要旨を各3部(うち2部は複写,匿名とする)提出する.
- 6. 投稿原稿は <u>2005 年 5 月 10 日 (当日消印有効)</u>までに, 紀要編集委員会事務局宛提出するものとする.

なお ,第二段審査では修正原稿 (ハードコピー)とともにフロッピー原稿 (英文要旨を含む) も提出していただきます .

問い合わせ先・原稿送付先:

住所: 〒184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

東京学芸大学 国際教育センター 紀要編集委員長 西村俊一

TEL: 042-329-7725

CALL FOR PAPERS: INTERNATIONAL EDUCATION, Volume 11

Submissions to the 10th edition of *International Education* are now being accepted, with a **deadline of May 10th. 2005**. This memorial issue will include both solicited and unsolicited manuscripts. Authors making unsolicited submissions in English should review these guidelines:

- 1. Manuscripts include research articles and research notes, which must be the original work of the author(s).
- 2. Papers should be double spaced, submitted on A4-size paper, contain twenty-two lines per page, and be no longer than forty pages in total length. Margins on the top, bottom, and sides should be no shorter than 2.5 centimeters (i.e., one inch).
- For general guidelines on appropriate style and format, please refer to the *Publication Manual* of the American Psychological Association.
 Example:

Smith, J. (2000). <u>The educational challenges of the new century</u>. New York: Broadway Publishing.

Pavil, S. (1997). Capitalizing on cultural capital: The movement of knowledge through corporations. <u>Harvard Business Journal</u>, 14 (1), 654-675.

- 4. Three copies should be submitted to the Editorial Committee for review. One copy should include the author's name, address, institutional affiliation, and phone number on the cover, and the other two should include only the title in order to maintain the author's anonymity. A floppy disk version, saved in RTF format, should also be included.
- 5. All English manuscripts must include a Japanese abstract that is one page in length (A4 size).
- All manuscripts will be accepted without revisions; accepted conditionally, with stipulations for more revisions; or rejected. In the case of conditional acceptance, the Editorial Committee reserves the right to reject a manuscript after revisions have been made if revisions are deemed insufficient.
- 7. Authors for whom English is a foreign language are recommended to have their manuscripts carefully proofread by a native speaker of English before submitting the paper. Writers who

submit manuscripts that have so many English mistakes so as to make the content indecipherable risk having their papers rejected.

Electronic versions of manuscripts will not be accepted. Please send all submissions by regular post to Shunichi Nishimura, Tokyo Gakugei University, 4-1-1 Nukuikita-machi, Koganei-city, Tokyo 184-8501. Inquiries about the journal may be directed to Professor Nishimura by telephone at 042-329-7725.

図書紹介

学会員が出版した図書の紹介を致します。

1 .Yuri Ishii (2003), Development Education in Japan: A Comparative Analysis of the Contexts for Its Emergence and Its Introduction into the Japanese School System, New York: Routledge Falmer.

本書は Development Education と呼ばれる分野がどのような社会的、政治的、経済的条件のもとに生まれ、学校教育の中に導入されていったのかを、数カ国の事例の比較により理論化し、その理論をもって日本の場合を分析し、論じたものであり、教育政策決定の背景から個々の教師の実践までを関連付けようと試みたものである。

第一章においては、Development Education という言葉と概念の様々な解釈を取り上げ、その意味するところが発言者の立場や当時の社会的な背景によって異なることを示し、「工業先進国の学校教育の中における Development Education」とはどのようなものだと解釈されうるかを述べている。第二章では、Development Education の導入は、その国の社会的、政治的、経済的な要因と関連があるという議論を、諸外国の比較を通して展開している。第三章では第二章でたてた理論的枠組みを用いて日本を分析し、1980 年代半ばには日本にも学校教育に Development Education を受け入れる状況はあったとする。第四章では、社会的、政治的、経済的な条件がそるった場合、各国ではどのような形で学校教育の中に Development Education が取り入れられたかを比較し、第五章以降で日本の教育の場合はどうであったかを論じるための視点を提供している。

第五章の Shoppa の理論に基づく政策作成過程の分析、第六章での生活科導入を事例とした、新しい要素がカリキュラムに位置づけられるまでの分析を経て、最後に日本の公立中学校で Development Education の実践を試みている教師に対する面接調査から、公のカリキュラム改訂 に時間がかかる中で、教師たちが教育現場で時代の変化に敏感に対応していることを結論付けている。(山口大学教育学部 石井由理)

2. 小川 彩子(2003)「突然炎のごとく」春陽堂書店.定価1,680円(税込)

いくつになっても学びたい人へ!アメリカの素顔に触れ、挑戦する勇気が湧く本 海外大学院挑戦と学位取得留学体験記、比較文化論。

著者が地域社会の一員として、大学院生として、教師として、車の免許証取得から博士号取得まで八年有余体験した泣き笑い。苦労やチャレンジは続いたが、「苦しみ」は「悦び」に転換されていった。デルタエアラインの機上でたてた滞米生活の目標 日本文化発信のためのホーム・パーティー続行、大学や企業で教える、英文の物語集出版、学位取得 はほとんど実現したが、そ

れらの目標達成の課程で流した汗と微笑と虹色の涙の狂詩曲がここに紹介されている。リズム感に溢れた文章と縦横無尽の人生謳歌のこの書はどんな道を目指している人にも刺激となり活用できると好評である。

【書評】著者の「積極性、行動力、向上心、挑戦する気概、Open-minded Behavior、社交性、コスモポリタン性、自国文化を大切にする心、平和思想」等はどれをとっても破格のものであり驚嘆した。豊かな感性をもつ彼女がリアル・アメリカに飛び込んで大学院生と教職の両方を同時体験し、グローバル教育を専門とするまでの生き方と活動には示唆される点が多い。文章も一気に読ませる魅力に富んでいる。勝部純基(元S製薬開発本部長)。

小川彩子・律昭著 (2004) 『デートは地球の裏側で!:夫婦で創る異文化の旅』春陽堂書店,1575円。旅も人生も挑戦だ!ユニークな夫婦の丸腰地球探訪エッセイもどうぞ。

寄贈文献一覧

学会に寄贈いただきました書籍・刊行物を紹介いたします.

川村学園女子大学図書館報「榉」 第 14 号 2005

- 『国際理解』35号 帝塚山学院大学国際理解研究所 2004
- 「帝塚山学院大学国際理解研究所報」 第18号 2004
- 「国立情報学研究所ニュース」No.25 2004.11
- 「The Japan Foundation Annual Report 2003」 国際交流基金
- 『学校教育学研究論集』第10号 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科 2004
- 『グローバル教育』Vol.4 日本グローバル教育学会 2001 (小川彩子「共生の教育と"文化のカプセル"」収載)

研 究 調 査 エ ピ ソード オランダ編

オランダ・アムステルダムの民間音楽学校

見原 礼子 (一橋大学大学院 COE フェロー、博士後期課程)

アムステルダムの中心から路面電車で10分ほどのところに、民間の音楽学校「アスラン音楽センター(Aslan Muziek Centrum)」がある。この学校の校長であるトルコ出身のレベント・アスラン氏は、15年以上前からアムステルダムで音楽活動を続けている。平日は正規の学校が終わる昼の3時頃から夜まで、週末は昼から夜まで開校されている。住民の高齢化が進んだために廃校になった小学校の校舎が利用されており、アスラン夫婦とその友人が共同で運営している。一昨年ほど前、自治体から正式に音楽活動をする団体として承認され、運営のための補助金も拠出されるようになった。

移民としてやってきた彼がこの学校を設立した目的は、民族や宗教の違いを乗り越えた音楽を 創り出したいと考えたからだという。この学校の生徒の多くは、移民や難民として世界各地から オランダにやってきた人びとである。そうした生徒やその家族たちがレッスン前後に必ず立ち寄 るのが、学校内の一室に用意されている広いリビングのような部屋である。昔は小学校の事務室 であったと思われるこの部屋は、現在改装されて温かい照明器具とソファーが置かれ、実に居心 地のよい空間となっている。レッスン後、何時間もこのリビングで過ごす人も多い。週末ともな ると、30人を優に超える人びとがその場に集まってくる。サズというトルコの弦楽器をひとりが 弾き始めると、こんどは別の人がそれに合わせて歌をうたう。中東に広くあるダルブカという太 鼓がこの部屋に響くと、そのリズムに合わせて子どもたちがダンスを始める。他の人たちは、そ れをバックミュージックにしながらおしゃべりに興じる。その横で、オランダ人の青年は、トル コ人の両親を持つ小さな女の子にオランダ語の読み書きを教えていた。そしてアスラン氏自身も、 皆に紅茶やコーヒーを振舞いながら、人びととゆったり語り合うのである。

しかしアスラン氏は、ここに集う多くの人びとが、アムステルダムに定住するに至るまで、多くの人や場所との別れや絶望的な体験をして、苦渋の人生を歩んできたことを知っている。今現在も、過去のトラウマを背負って生きている人や、これから生きていくことに対する不安を覚える人もいる。彼が様々な人生ストーリーを知ることになったのは、世話好きで誰に対しても気配りをするアスラン夫婦の性格によるところも大きいだろう。彼がこの場に集う人びとの複雑な過去や現実に向き合うとき、この音楽学校が、音楽の技法を教えるだけでなく、憩いや癒しの場として機能することの意義を強く感じるのだという。

レッスンが終了した後、アスラン氏本人が友人3人と組んでいる音楽チームの演奏を聞かせて もらった。ピアノ、クラリネット、そしてダルブカ2台の編成による4重奏である。ピアノの伴奏 に乗って、東洋の打楽器と西洋の管楽器のハーモニーが見事に融合しつつ、それぞれの個性を響 かせていた。様々な民族が共存するアムステルダムという街で、この音楽のようにひとりひとり が豊かな音色を奏でる日を想って、学校を後にした。

海外の学術会議情報

鈴木 慎一

新しい年になりました。会員の皆様方は、それぞれの新年をお迎えになれたことと思います。 今年も海外に教育関連学会等がいろいろと企画されています。目に付いたものを紹介します。早 い月から順に並べます。

【2005年】

1. イギリス教育哲学会 2005 年度年次大会場所: New College, オックスフォード大学

期日:2005年4月1-3日

連絡先:Dr Lynda Whitehead, Philosophy of Education Society of Great Britain

Administrator, C/o Centre for Youth Ministry, Church Annex, Oxford

論文:受付締め切りました。

2.第25回国際教師教育学会年次セミナー(25th Annual Seminar of International Society for Teacher Education)

主題: 教師教育のグローバライゼーション (Globalization of Teacher Education)

場所:台湾 Tamakang University (台北市)

期日:4月9-16日、

連絡先: Professor Gai, Che-Shen; <u>117700@mail.tku.edu.tw</u>

Professor Kao, Kitty Hsun-Feng; <u>kittykao@mail.tku.edu.tw</u> Assistant Chao, Kathy Yu-Hua; <u>yhchao@mail.tku.edu.tw</u>

論文:受付中(3月1日締め切り)

3. 第9回東西哲学会議 (Ninth East West Philosophers' Conference)

主題: 教育とその目的: 多文化のなかの哲学的対話(Educations and Their Purposes: A Philosophical

Dialogue among Cultures)

場所:ハワイ大学東西センター 期日:2005年5月29日-6月10日 参照:www.hawaii.edu/phil/conf

論文:受付締め切りました。

4.2005年度第五回アジア比較教育学会 (the 5th Comparative Education Society of Asia Biennial Conference 2005)

主題:世界平和を目指す教育:アジアの文脈(Education for World Peace: The Asian Context)

場所:Universiti Kebangsaan Malaysia, Bangi, Selangor, Malaysia

期日:5月30-31日会費:250米ドル

連絡先: The 5th Comparative Education Society of Asia (CESA) Biennial Conference 2005, Faculty

of Education, Univerisiti Kebangsaan Malaysia, 43600 UKM Bangi, Selangor, Malaysia

論文:アブストラクト受付;1月31日

5 人権教育国際会議:理論と実践 - 21 世紀に向けて(Human Rights Education Conference: Theoretical and Practical Considerations for the 21st Century)

場所: Roehampton University, Southlands College

期日:6月17-19日

会費:ウェッブ参照のこと

連絡者: Dr Pelagia Pais, CPD Office, Roehampton University, Froebel College,

Roehampton Lane, London, SW15 5PJ, UK

参照:www.roehampton.ac.uk/ses/conference/HumanRightsConference.asp

論文:受付中(1月31日締切)

6. 国際銀行研究所年次国際会議(International Banking Institute Annual Conference)

主題: Quality Management in Modern High School

場所:International Banking Institute;サンクト・ペテルブルグ(ロシア)

期日:6月20-24日 連絡先:www.ibi.spb.ru

7. 教育研究ヨーロッパ会議 (European Conference on Educational Research) 年次大会

ヨーロッパ教育研究会議 (European Educational Research Association) 年次大会

主題:例;大学の理念(ダブリン大学創設 150 周年に当たるが、ダブリン大学はニューマンの大学の

理念に基づいて創設された経緯がある。)

場所:University College Dublin

期日:9月7-9日

連絡先: EERA, secretariat, room W307, Sir Henry Wood Building, University of

Strathclyde, 76 Southbrae Drive, Glasgow G13, 1PP, UK

参照:<u>www.eera.ac.uk</u>

8. Complex, Science and Society 学際的国際会議

主題:『複雑系理論と教育』(ほとんど全ての文化・社会・科学技術の次元を含む討論)

場所:Liverpool University, UK

期日:9月11-14日

連絡者:Dr Tamsin Haggis, at tamsin.haggis@stir.ac.uk

参照:www.liv.ac.uk/ccr/2005_cnf/index.htm

9. イギリス教育学会年次大会

場所:University of Glamorgan, Wales

期日:9月14-17日

連絡者: Dr David Bridges, d.bridges@uea.ac.uk

10. ヨーロッパ国際教育協議会第 17 回年次大会 (17th Annual Conference of the European Association for International Education)

主題: Internationalizing Higher Education: a priority for the enlarged Europe

場所: Auditorium Maximum, & Silesian Collegium, Krakow, Poland

期日:9月14-17日

連絡先:www.eaie.org (詳細は5月以降)

11.第4回国際 mLearning 大会 (the 4th international Mobile Learning Conference))

主題:mLearn 2005

場所:ケープタウン(南アフリカ)

期日:10月25-28日

論文提出:アブストラクトの提出;3月11日締め切り

連絡先: www.mlearn.org.za/

12. World Summit on the Information Society: Second Phase

場所:チュニス(チュニジア)

期日:11月16-18日

連絡先: www.smsitunis2005.org/plateforme/index.php?lang=en
注: 一般に必ずしも開放されていません。事前に登録審査が必要です。

13.2005年度ICDE国際会議(ICDE 2005 International Conference)

主題:グローバル環境における遠隔地 開放教育:協力の機会をめざして (Open and Distance

Education in Global Environment: Opportunities for Collaboration)

場所:インディラ·ガンジー国立オープンユニヴァシティー(Indira Gandhi National Open University)、

ニューデリー、(インド) 期日:11月19-23日

連絡先:www.ignou.ac.in/icde2005/index.htm

【2006年】

14. 時空間に関する多彩な言説: 学際的国際会議 (international, multidisciplinary conference on different relationship between space, haunting and discourse)

主題:Space, Haunting, Discourse 場所:Karlstad University, Sweden

期日:2006年6月15-18日

連絡先: www.kk.se/eng/conf/space/

日本国際教育学会 Newsletter No.16

編集発行 : 日本国際教育学会 代表 江原裕美

発行所: 〒182-8585 東京都調布市調布ヶ丘 1-5-1

電気通信大学 国際交流推進センター 志賀幹郎研究室

TEL:0424-43-5738(直通) FAX:0424-43-5742(事務室) E-mail:shiga@fedu.uec.ac.jp http://wwwsoc.nii.ac.jp/jies/

発行年月日: 2005年2月28日